

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月13日
【四半期会計期間】	第54期第3四半期（自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日）
【会社名】	愛眼株式会社
【英訳名】	AIGAN CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 下條 三千夫
【本店の所在の場所】	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号
【電話番号】	06-6772-3383（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 下 祥造
【最寄りの連絡場所】	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号
【電話番号】	06-6772-3383（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員管理本部長 下 祥造
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第3四半期連結 累計期間	第54期 第3四半期連結 累計期間	第53期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高(百万円)	12,169	12,590	16,150
経常損失() (百万円)	1,168	281	1,606
四半期(当期)純損失() (百万円)	1,915	492	3,729
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,884	449	3,639
純資産額(百万円)	17,775	15,571	16,020
総資産額(百万円)	20,792	18,673	18,903
1株当たり四半期(当期)純損失 金額()(円)	97.97	25.35	191.05
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	85.5	83.4	84.7

回次	第53期 第3四半期連結 会計期間	第54期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純損失金額 ()(円)	21.82	12.52

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第53期第3四半期連結累計期間、第53期及び第54期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

（1）業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や金融政策を背景に、消費税率引き上げ前の駆け込み需要や寒さが急に増したことによる冬物需要の増加も加わり、緩やかな回復を迎えています。円安による原材料価格の高騰に伴う物価上昇不安などが懸念されるものの、雇用や所得環境も改善されつつあり、消費マインドは持ち直してきております。

このような状況のもと当社グループは、事業戦略「NEW愛眼プロジェクト」を堅実に推進し、店舗の新規開設とリニューアル、店名ロゴの変更、メガネ一式価格「スマートプライス」の表示とお客様動線を考慮した商品演出、マス媒体やインターネットを活用した広告宣伝などの営業活動を展開してまいりました。「a:r」「FIVE SCENE」など機能・材質に特徴のあるオリジナルブランド商品を開発、また釣り用偏光サングラス「ストームライダー」、風呂専用メガネ「アイガンFORゆ」など、潜在ニーズの高かった商品をニッチな市場へ投入する一方、提案販売に努め、地域消費者へNEW愛眼の周知と接点の拡大に取り組みました。特に「アイガンFORゆ」に関しては、今迄なかったコンセプトから度々マスコミに取り上げられ、新規顧客の増加のきっかけになっております。またシリーズ化し主力商品となった「POCOP」が、販売10万着を達成するなど、着実に顧客支持を広げております。店頭では、眼鏡専門店として視力補正やカウンセリングなどの各種サービスは勿論、お客様の様々なライフシーンを演出する「アイスタイリング・サービス」の提案に努め、お客様の満足向上、購買促進に結び付けております。

店舗に関しては、新規に18店舗を開設し、7店舗を閉鎖、移転を含め既存店54店舗を「NEW愛眼」へリニューアルし、清潔感のあふれる店舗づくりを進めました。

売上については、クーポン利用やロープライス眼鏡の2着目半額などお買い得感や複数購入をアピールしたセールの実施によって、眼鏡販売単価は低迷したものの販売着数が各年代で順調に増加し、またサングラス、補聴器の売上も好調を維持しました。

利益については、商品構成の見直し、オリジナル品の新規投入と販売比率のアップなどで売上総利益率は改善しました。また、新規出店や改装等を積極的に推し進め費用増加が見込まれるため、家賃の削減や人件費の圧縮などにより、一層の諸経費削減に努めました。

海外(中華人民共和国)におきましては、地域密着の営業活動を展開したものの依然販売環境が厳しく、売上は前年を下回りました。

以上の結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績につきましては、売上高は12,590百万円（前年同四半期比3.5%増）となり、営業損失は362百万円（前年同四半期は営業損失1,185百万円）、経常損失は281百万円（前年同四半期は経常損失1,168百万円）、また特別損失として減損損失140百万円を計上したことにより、四半期純損失は492百万円（前年同四半期は四半期純損失1,915百万円）となりました。

（2）財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は18,673百万円、負債合計は3,102百万円、純資産合計は15,571百万円となりました。前連結会計年度末に比べ負債合計が219百万円増加し、純資産合計が449百万円減少した結果、自己資本比率は83.4%となりました。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

設備計画の完了

新設

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第3四半期連結累計期間に完了したものは、次の通りであります。

地域別	事業所数	設備の内容	完了年月	投資金額 (百万円)
関東地域	営業店9店	眼鏡店舗	平成25年4月～平成25年12月	281
中部地域	営業店1店	眼鏡店舗	平成25年4月～平成25年12月	15
近畿地域	営業店5店	眼鏡・写真 店舗	平成25年4月～平成25年12月	104
計	-	-	-	401

(注)上記金額には、消費税等を含んでおりません。

改修

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の改修について、当第3四半期連結累計期間に完了したものは、次の通りであります。

地域別	事業所数	設備の内容	完了年月	投資金額 (百万円)
東北地域	営業店1店	眼鏡店舗	平成25年4月～平成25年12月	3
関東地域	営業店10店	眼鏡店舗	平成25年4月～平成25年12月	27
中部地域	営業店7店	眼鏡店舗	平成25年4月～平成25年12月	32
近畿地域	営業店34店	眼鏡店舗	平成25年4月～平成25年12月	194
四国地域	営業店2店	眼鏡店舗	平成25年4月～平成25年12月	5
計	-	-	-	262

(注)上記金額には、消費税等を含んでおりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	21,076,154	21,076,154	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	21,076,154	21,076,154	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1 日～ 平成25年12月31日	-	21,076,154	-	5,478	-	6,962

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である平成25年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,666,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,383,100	193,831	-
単元未満株式	普通株式 26,554	-	-
発行済株式総数	21,076,154	-	-
総株主の議決権	-	193,831	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が500株(議決権の数5個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
愛眼株式会社	大阪市天王寺区大道四丁目9番12号	1,666,500	-	1,666,500	7.91
計	-	1,666,500	-	1,666,500	7.91

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,117	4,556
受取手形及び売掛金	948	851
商品及び製品	2,418	2,893
原材料及び貯蔵品	16	18
その他	227	176
貸倒引当金	12	13
流動資産合計	8,716	8,482
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,895	6,799
減価償却累計額	5,533	5,481
建物及び構築物(純額)	1,361	1,317
土地	2,075	1,945
その他	2,425	2,545
減価償却累計額	2,417	2,335
その他(純額)	7	210
有形固定資産合計	3,444	3,473
無形固定資産	2	64
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,091	4,199
投資有価証券	1,490	1,527
長期預金	100	-
その他	1,069	930
貸倒引当金	11	4
投資その他の資産合計	6,740	6,653
固定資産合計	10,187	10,190
資産合計	18,903	18,673

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	770	961
1年内返済予定の長期借入金	65	60
未払法人税等	118	87
賞与引当金	50	0
その他	923	1,029
流動負債合計	1,927	2,137
固定負債		
長期借入金	405	365
繰延税金負債	48	62
再評価に係る繰延税金負債	7	7
資産除去債務	348	354
その他	145	174
固定負債合計	955	964
負債合計	2,882	3,102
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,478	5,478
資本剰余金	6,962	6,962
利益剰余金	7,066	6,512
自己株式	1,050	1,050
株主資本合計	18,456	17,902
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	90	118
土地再評価差額金	2,534	2,471
為替換算調整勘定	7	22
その他の包括利益累計額合計	2,435	2,331
純資産合計	16,020	15,571
負債純資産合計	18,903	18,673

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	12,169	12,590
売上原価	4,034	4,009
売上総利益	8,135	8,580
販売費及び一般管理費	9,321	8,943
営業損失()	1,185	362
営業外収益		
受取利息	17	18
受取配当金	8	10
受取家賃	28	33
負ののれん償却額	1	-
物品売却益	-	16
その他	50	69
営業外収益合計	106	148
営業外費用		
支払利息	2	4
固定資産除却損	45	25
賃貸費用	23	26
その他	18	11
営業外費用合計	90	67
経常損失()	1,168	281
特別利益		
投資有価証券売却益	0	5
特別利益合計	0	5
特別損失		
投資有価証券評価損	2	0
減損損失	162	140
特別退職金	502	-
特別損失合計	667	140
税金等調整前四半期純損失()	1,836	417
法人税、住民税及び事業税	78	74
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	79	74
少数株主損益調整前四半期純損失()	1,915	492
四半期純損失()	1,915	492

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失()	1,915	492
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31	27
為替換算調整勘定	0	14
その他の包括利益合計	31	42
四半期包括利益	1,884	449
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,884	449

【注記事項】

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理）

該当事項はありません。

（追加情報）

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	0百万円	1百万円
支払手形	143	98

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	272百万円	153百万円
のれんの償却額	-	3
負ののれんの償却額	1	-

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	39	2	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、報告セグメントが「眼鏡小売事業」のみであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

該当事項はありません。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下の通りであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額()	97円97銭	25円35銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額()(百万円)	1,915	492
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額() (百万円)	1,915	492
普通株式の期中平均株式数(千株)	19,557	19,409

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月13日

愛眼株式会社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊與政 元治 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中畑 孝英 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている愛眼株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、愛眼株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。